秋田県立ゆり支援学校

ゆり地域支援だより

令和6年2月29日発行　第4号　秋田県立ゆり支援学校　地域支援部

『改めて「自立」とは？』

ゆり支援学校　校長　近藤千晴

「自立」という言葉はよく耳にしますが、あなたはどんなイメージをもっていますか？身辺自立？それとも経済的自立でしょうか？広辞苑によると、「他の援助や支配を受けず、自分の力で判断したり、身を立てたりすること。」とありますが、そうするととても高いハードルになります。

厚生労働省によると福祉分野における「自立」とは、『自己決定に基づいて主体的な生活を営むこと』『障害をもっていてもその能力を活用して社会活動に参加すること』の意味としても用いられているということです。こちらの方がしっくりくるかもしれません。

さて、特別支援教育では「自立活動」を大事にしており、教育課程の根底に流れています。特別支援学校学習指導要領解説によると、自立活動で目指す「自立」とは、「児童生徒がそれぞれの障害の状態や発達の段階等に応じて、**主体的に自分の力を発揮しよりよく生きていこうとする**ことを意味している。」とされています。個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために、**幼児児童生徒が**困難な状況を認識し、困難を改善・克服するために必要となる知識、技能、態度及び習慣を身に付けるとともに、**自己が活動しやすいように主体的に**環境や状況を整える態度を養うことが大切である」とも書かれています。

あくまでも主体は子どもです。自ら好奇心をもってチャレンジし、多様な経験を重ね、失敗しても立ち上がり乗り越え、自分なりの方法を見付けるなど、その子なりに自己理解し、人やもの、ことと関わりながら、知識や技能、表現力等を身に付けていく子どもたち。本人なりの願いや思いに近付こうとする歩みを、先々にレールを敷いてあげるのではなく、時には信じて待ち、時にはタイミングよくアシストし、陰日向で支えることこそが、私たち伴奏者としての役目ではないかと思っています。

子ども理解シートを活用した支援の共通理解

本校では、子どもの困り感、行動の要因や背景に何があるのかを知り、職員間で共通理解を図り支援していくために子ども理解シートを活用しています。

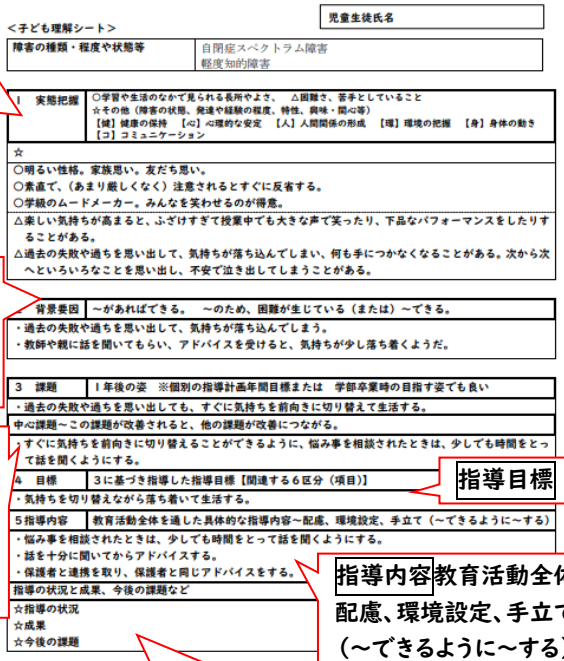
今年は阿部裕子教頭から「子ども理解シートを活用した自立活動の指導」についての講話の後、実際に子ども理解シートを活用して対象児童生徒について話し合いました。活用の仕方を確認したことで、対象児童生徒に関わる教師から具体的なエピソードや背景要因が語られ、より深く子どもを理解し、適切な指導内容を設定、支援することへつながりました。定期的に話し合い、児童生徒の変容も学部内で共通理解しています。

児童生徒の願いや思いをしっかり受け止め、児童生徒に関わるみんなが共通理解して支援していくことが大切だと思います。

実態把握
学習や生活のなかでの
・長所、よさ
・困難さ
苦手なこと

背景要因
～があればできる
～のため、困難が生じている

課題一年後の姿
中心課題
この課題が改善されると、他の課題の改善につながる



＜子ども理解シート＞

	児童生徒氏名
障害の種類・程度や状態等	自閉症スペクトラム障害 軽度知的障害
1　実態把握	○学習や生活のなかで見られる長所やよさ、　△困難さ、苦手としていること ☆その他（障害の状態、発達や経験の程度、特性、興味・関心等） 【健】健康の保持　【心】心理的な安定　【人】人間関係の形成　【環】環境の把握　【身】身体の動き 【コ】コミュニケーション
☆	
○明るい性格。家族思い。友だち思い。 ○素直で、（あまり厳しくなく）注意されるとすぐに反省する。 ○学級のムードメーカー。みんなを笑わせるのが得意。	
△楽しい気持ちが高まると、ふざけすぎて授業中でも大きな声で笑ったり、下品なパフォーマンスをしたりすることがある。 △過去の失敗や過ちを思い出して、気持ちが落ち込んでしまい、何も手につかなくなることがある。次から次へといろいろなことを思い出し、不安で泣き出してしまうことがある。	
背景要因	～があればできる。　～のため、困難が生じている（または）～できる。
・過去の失敗や過ちを思い出して、気持ちが落ち込んでしまう。 ・教師や親に話を聞いてもらい、アドバイスを受けると、気持ちが少し落ち着くようだ。	
3　課題	1年後の姿　※個別の指導計画年間目標または　学部卒業時の目指す姿でも良い
・過去の失敗や過ちを思い出しても、すぐに気持ちを前向きに切り替えて生活する。	
中心課題～この課題が改善されると、他の課題が改善につながる。	
・すぐに気持ちを前向きに切り替えることができるように、悩み事を相談されたときは、少しでも時間をとって話を聞くようにする。	
4　目標	3に基づき指導した指導目標【関連する6区分（項目）】
・気持ちを切り替えながら落ち着いて生活する。	
5指導内容	教育活動全体を通した具体的な指導内容～配慮、環境設定、手立て（～できるように～する）
・悩み事を相談されたときは、少しでも時間をとって話を聞くようにする。 ・話を十分に聞いてからアドバイスする。 ・保護者と連携を取り、保護者と同じアドバイスをする。	
指導の状況と成果、今後の課題など	
☆指導の状況 ☆成果 ☆今後の課題	

指導目標

指導内容教育活動全体配慮、環境設定、手立て（～できるように～する）

指導の状況と成果、今後の課題など

※子ども理解シートの詳細はゆり支援学校まで

「切れ目ない支援に向けて」

教諭（兼）教育専門監　桐田明日子

今年度から実施されている「第四次秋田県特別支援教育総合整備計画」における四つの柱の四つ目は「切れ目ない支援に向けた関係機関の連携強化と特別支援教育の理解推進」です。第三次の同計画の成果と課題を踏まえ、全ての学校（園）での指導・支援の充実のために、新設されました。

その基本方向の１は「教育と医療、福祉、保健、労働等の関係機関の連携強化」であり、重点施策（１）は「就学前から就学後まで継続的で一貫性ある教育支援に向けた就学相談・支援の充実」となっています。

本校ではセンター的機能として、幼稚園・保育所・認定こども園、小・中・高等学校等へ支援を行っていますが、中でも特に多いのが園への訪問です。支援を必要とする子供にとっての連続性、継続性のある学びの場を推進していくためには早期からの取組が重要であり、園の先生方の気付きが訪問要請につながっていると考えると、大変ありがたいことです。

一方で、「小１ギャップ」や「中１プロブレム」、最近は「高１クライシス」などという言葉が聞かれますが、就学・進学に伴って不適応や問題が起こる状態や現象を示し、一般的にも使われる言葉のようです。まして、特別な支援を必要としている幼児児童生徒は、就学や進学、或いは転学などに伴う環境の変化によって、新たな学習・生活上の困難が生じたり、困難さの状況が変化したりすることが予想されます。周囲が思う以上に、大きな不安や戸惑いを抱えているかもしれません。だからこそ、それまで実施してきた支援を、次の就学先や進学先等へ確実に引継ぎ、一貫した支援を充実させることがとても重要です。

園の先生方には、小学校への引継ぎのポイントなどを具体的に伝えていますが、迎え入れる小学校側の体制はどうでしょうか。最近は、園側から、小学校の先生方が気になる子供の様子を見に来てくれるという話を聞くようになり、大変心強く思っていますが、まだそう多くはありません。そして、小学校から中学校、中学校から高校への引継ぎも十分とはいえず、課題がみえています。

切れ目ない支援の実現に向け、子供本人と保護者、関係機関を含めた支援者とで、幼児児童生徒の変容や成長した姿を共有し、喜び合いながら次のステージにつないでいくことを目指し、園、各校種、それぞれの段階で効果的な引継ぎができるよう、計画的、組織的に取り組んでいただけたらと願っています。本校も喜んでお手伝いいたします。ぜひ、ご活用ください。

【高等部卒業後の生活を見据えて～小学校低学年段階から取り組んでおきたいこと～】

卒業・進級の季節となりました。高等部３年生は社会人として巣立っていきます。社会人として、求められるのはやはり基本的な生活習慣や身辺処理です。数年前に卒業された先輩の保護者の方から「小さいときから、がんばらせていたらよかった・・・。」とつぶやきをお聞きしたことがあります。具体的には感じのよい挨拶や返事。身辺処理では毎日の歯磨き、洗顔、入浴、整容、着替え。自分の物の管理、時間の意識等々・・・。基本的な生活習慣を身に付けるには小学校の低学年段階からの積み重ねがとても大切になります。子どもが生活に必要な力を身に付けられるように、保護者の方には手を出したくなるのをぐっとこらえてほしいと思います。子どもたちが「やってもらう」ことが当たり前になってしまう前に、高等部卒業後の生活を見据えて、私たち大人が今できることを考えていきませんか？

先生方のお悩みや疑問にお答えします。ご連絡、お待ちしています。

秋田県立ゆり支援学校　地域支援部

TEL:0184-27-2631 E-mail:yuri-s@akita-pref.ed.jp